

2020 年度公共経営稲門会総会 会議議事録

2020 年 7 月 4 日

I. 会議の開催概要

公共経営稲門会の総会が 2020 年 7 月 4 日、15 時よりオンライン会議（Zoom）で開催されることを宣言しました。

II. 出席確認

議長が出席確認を実施しました。今回の出席者：（順不同、括弧内は修了年）

川和（2017 年秋）、青木（3 期）、田中（2015 年春）、中村（2008 年秋）、金子（2020 年春）、平賀（2009 年春）、古橋（2018 年春）、花房（2008 年春）、銭谷（2009 年春）、西村（2015 年春）、大場（2019 年春）、三加茂（2011 年春）、鍋島（2017 年春）、小林（2007 年秋）、野口（2006 年春）、畠田（2010 年はる）、大沢（2018 年春）、細川（2008 年春）

※チャット機能より書き起こし

III. 進行と議事要旨（発言者 敬称略）

1. 開会挨拶

2. 議長選出

鍋島幹事長：規約上、議長の選出は会長となっているため細川氏にお願いしたい。

細川会長：承知した。報告事項に移る

3. 報告事項

(1) 2019 年度活動報告（鍋島幹事長）

① 学生相談会：2 名に対して実施。例年よりも人数が少なかったため伴走型で実施した

② 公共経営 15 周年を祝う会：すでにご報告の通り新型コロナウイルス感染症の関係で延期をしている。開催については改めてご案内をさせていただく。2020 年度の方角で検討している。

③ 修了式への出席：例年の実施。春季、秋季での挨拶と入会依頼を行った。

(2) 2019 年度予算について（会計担当、田中氏）

・2019 年度会計については、添付資料の通り

・1 点、補足は事業経費のうちの、会場費 20 万円については、先ほど鍋島幹事長からご説明をいただいた、15 周年を祝う回の延期にあたり、「実施する想定」であることの前払金として支払いをしている。延期開催をした場合には会場費にあてがわれることになる。

平賀監事：通帳、領収書等により問題なく処理されていることを確認していることご報告申し上げます。

細川会長：以上までで質疑はあるか

全員：なし

4. 議案審議・議案 1 号「2020 年度予算案及び事業の審議」

細川会長：事業案は添付ファイルの通り。背景としては、後ほどご説明をいただくが、公共経営大学院の形が変わってくる可能性があるため、この中での公共経営研究科としての理念やネットワークを深く、広げていくような事業案としている。

会計担当、田中氏：会計については、記載の通り。

細川会長：議案についてのご説明は以上であるが、ご意見などあるかたは挙手かチャットを。

<質疑>

大沢氏：制作する本について、誰に対して、どのような目的で制作されるのか。

細川会長：ターゲットは我々。振り返る時間がこれまでなかった。裏の目的としては、卒業生や先生方とのネットワーク化。縦のつながりが弱いので、これを機会に再度広げていきたい。

大沢氏：予算の 3 万円はどのようなことか。電子書籍ということでボランティアベースという理解。そのような中で 3 万円は何に使うのか。

細川会長：ご理解の通りボランティアベース。3 万円は皆様、先生方にお話をお聞きするときの喫茶代、会議代と捉えていただければと思う。これによって何か利益を得ようということは考えていない。

※2020 年度以降の公共経営研究科について、田中研究科長と野口先生からのお話は議事録末に掲載

石本氏：グローバル公共経営の修了生も公共経営稲門会に入るのか

野口先生：稲門会は、修了生による自主的な集まりであるため教員側に権限はないが、もし入れていただければ、それは修了生にとっても財産になるので、是非ともお願いしたい。

細川会長：是非入っていただきたいと考える。

田中先生：公共経営が辿ってきた道、学んでくださった方の道をまとめてくださることはとても意味があることだと思う。教員も新陳代謝が進んで、公共経営独立大学院が立ち上がったときについて、覚えている人がどんどんいなくなってしまう。5-10 年でいなくなられるだろう。一貫した流れの中でどんな実績を積み上げてきたのか、若くなっていく教員に残していくことについても、とても意味があると思う。是非とも行っていただきたい。

<質疑終了>

細川会長：予算、決算と今年度実施の方向性について採決の方挙手をお願いしたい

全員：画面上で挙手

細川会長：全員一致で議案 1 号を完了する。

5. 議案審議・議案 2 号「2020 年度役員の特任」

細川会長：それでは議案 2 号につき、2020 年の役員に立候補する方は挙手を

全員：なし

細川会長：承知した。私の方で案を作成したので提示する。異議ないか。

全員：なし

細川会長：全員一致で議案 2 号を完了する。

6. 新役員挨拶

細川会長：就任あいさつをさせていただく。今回の新型コロナウイルスの関係も含め、公共性ということでの捉え方は大きく変わっていると感じている。この中で私たちのコミュニティも広げていくことをさらにやっていきたい。

7. 閉会

細川会長：予定していた議案は以上である。他になければ閉会する。

終了（同日 16:00）

（参考）

■ 2020 年以降の公共経営研究科について

（田中研究科長）

・研究科長をしている。公共経営稲門会総会があるということで参加した。細川さんからお話があったように、大きな改革があるので再編の要点と経緯をご説明する。非常にたくさんの各部門で活躍になられている先輩方たくさんおられるが、先輩方が築かれた公共経営大学院を、政治学研究科からその灯火を消すわけにはいかない、その一方で、公共経営大学院における志願者の減少、経営的に赤字が続いている状況。大学院を廃止にするような波もあった。それに対して、野口専攻主任を筆頭に、なんとか形を変えて修了定員を減らすことで研究の質をあげる、グローバル化の視点から公共経営の理念を作り上げる、という視点で、「グローバル公共経営政策コース」という新しい組織を立ち上げて、行うこととした。次回 9 月入学をもって、一旦専門職大学院という形では閉じるが、政治学研究科におけるコースとして残ることとした。海外からの留学生も 2023 年以降取り込んでいくこととしている。

諸先輩方、この公共経営、公共政策の理念の灯火を照らし続けていただいた皆様より、また後輩へのご支援ご指導を賜ればと考えている。次の執行部にこの趣旨は伝えられ、また目標を完遂するよう、どうぞ、ご了解、ご支援をいただければと思う。

(野口先生)

田中先生が大きなところを話してくださったので、少し細かいことも補足させていただく。

田中先生がお話くださったように、我々公共政策大学院で連携委員会を作っているが、どの大学も公共政策という領域そのものに対する受験者数が減っている。その中でいろいろな大学院が工夫をしながらやっている。その中で率直に申し上げて、我々は競争に破れ去っているという現状がある。1年間50名の定員、2年間100人の収容人数となっているがここ数年は2年間で45-6人という状況になっている。この実態に合わせて、1年25人、2年50人ということをやっている。

2021年4月には日本語コース2年制、2022年には1年制、2023年に博士後期課程、2023年9月に英語コースと拡充する。実務、研究、理論というところを融合させながら、数年必要だと思うが完成形にもっていければと思う。ここまでの伝統で言うと、これまで通り、フィールドワークなどにも力を入れるところであるが、EBPMについてもさらに力を入れていくことにしている。また、これまで学生から要望があったが答えられなかったのだが、英語のプログラム充実の要望もあったので充実をさせていくことで考えている。

もう1点はテーマ別で、これまではあまり充実できていなかったが、人口問題、都市問題、環境問題、医療政策、開発などテーマ設定ごとにした展開も考えている。アメリカの公共政策大学院からかなり学んでいるが、科学的エビデンスを出せるようなゼミの設定を考えている。

これまで15年築いてこられた伝統、いろいろなところで活躍されている皆様のお力添えもいただきながら、新たな時代の要請をうまくつないでいきたいと考えている。